

地域社会の課題を学生のビジネスアイデアで解決する ～ Matching HUB Hokuriku 2021 M-BIP コンテスト～

団体名●野口ゼミナール(3年)／代表者名●野口将輝(経済学部経営学科・准教授)

はじめに

本活動は野口ゼミナール(3年)のゼミ生有志によって行われた自主的な活動である。ゼミ生は自分たちの身近にある社会課題や不便な事柄を起点に、ビジネスアイデアを検討し、外部のコンテストで発表した。

本活動の目的は、学生にこれまで経営学科で学んだ知識・経験を、実際の地域社会の課題解決にどのように結びつけるかを、自発的に考え、行動してもらうことである。また、それらをビジネスという継続性の観点から考察し、かつ外部からの評価を得ることで学びの実践を意識したものとなっている。

活動内容

本活動はまず上記の活動についての計画をゼミ生に連絡し、参加希望者を募った。その後ゼミ生は自分たちなりの社会課題についてディスカッションをした後に、それらを解決するためのビジネスプランを検討した。そのビジネスプランは学内で留めることなく、ビジネスアイデアコンテストに提出し、外部からの客観的な評価を仰いだ。今回ゼミ生が参加したのは、日刊工業新聞社主催のキャンパスベンチャーグランプリ2021と北陸先端科学技術大学院大学主催の Matching HUB Business Idea & Plan Competition (M-BIP)の2つである。今回は大きな展開があった後者について特に記述する。

ゼミ生が M-BIP に提起したプランは「日本人紹介制現地外国人ガイドシステム」である。新型コロナウイルス後の社会を念頭に、「現地外国人ガイドと日本人旅行者をマッチングするビジネス」であり、「信頼できる現地外国人ガイド」を「日本人が紹介する」ことで運営コストの大幅削減を目指すものである。紹介した側の日本人にも利益を配分した上で、本プランはその仲介料を主な売上とする。

書類審査通過後は、ゼミ生はメンターと呼ばれる外部の新規事業担当者とのコンサルティングを経て、プランのブラッシュアップに取り組んだ。また、

自分たちのプランの肝や本質は何かを意識した上で、発表練習に取り組んだ。

本選当日のポスター発表では来場者に対して自分たちのプランの魅力を伝え、またプレゼン審査では堂々たる発表を行った。その結果、本活動は「PFU賞」を受賞し、副賞としてかほく市に本社を構える PFU 社での社内プレゼンの機会も得た。社内プレゼンでは、さらにプランを深めるとともに、ゼミ生はプランの実現を意識するようになった。



M-BIP での受賞後の様子

成果、結果の考察

ゼミ生はこの一連の活動を経て、飛躍的な成長を遂げた。特に、ゼミ生の自主的な学びの姿勢については目を見張るものがあった。ゼミ生もこれまでの学びが有機的に本活動につながっていることを意識できており、今後も積極的な活動が期待される。

今後の課題、展望

本活動は上記の内容に加えて、現在新たな展開が見込まれている。本活動のメンターを務めて頂いた企業とのベトナムでの新規プロジェクトである。具体的には、今夏には実際にベトナムを訪れ、自身のプランの実現性などを検証する予定である。